



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-2 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2016年10月号

NO 482

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」
テサロニケの信徒への手紙 — 5章16節～18節

EMC/E(クラブ拡張)

9月例会で、卓話者の東京YMCA副総主事の菅谷淳さんがブランディングという馴染みの無い言葉を使われました。ブランドとは、他とは差別された銘柄、ブランディングは、その「一流」で「価値」があり、憧れられ、愛されるイメージ化です。

1人でも多くの人たちにブランドと思って頂けるように、顧客目線に立脚した構築作業、ブランドを作るプロセスが「THE YMCA」9月号で解説されております。

ワイズメンズクラブ、YMCAはブランドですと大きな声で言えるでしょうか。かの有名なYMCA、ワイズメンズクラブです、ブランド品です、どうぞお入り下さいと大衆に呼びかけることができるでしょうか。

今月はEMC/Eの月であります。今、東京西クラブがエクステ

ンションを考えると知名度からは東京YMCAホテル学校関係と毎月活動しているWHO関係です。これらの関係者に先ずクラブに入会、シンパになって頂きブランドの本体になって頂くことです。

ホテル学校関係は小畑主事、宮崎主事を始め多くの主事さんに協力をお願いして、卒業生や知人にワイズメンズクラブのブランディングを働きかけていただく。

WHO関係者には、木原前会長が進めていた当クラブのブリテン配布に加え、毎月発行されている東京YMCAの機関誌を配布して見て頂き、歩きながら参加者にブランディングする。

会員を増やすのは簡単ではありません。いろいろなご意見の方もあります。愛は長く苦しむことで自己犠牲が伴うことですがワイズらしく楽しく考えましょう。

(山田利三郎)

WHOウォーキングのご案内

深まりゆく里の秋、町田市三輪の奈良三輪山ゆかりの古刹巡りを楽しみます。

期 日：2016年10月22日
(第4土曜日)

コース：小田急線・鶴川駅—東光院—岡上神社—営農団地(遠望)—熊野神社—高蔵院—白坂横穴古墳群—沢谷戸自然公園—梶山神社—高蔵地藏堂—妙福寺—バス停・妙福寺前—<バス>—小田急線・鶴川駅

集 合：小田急線・鶴川駅南口
開 札 午前9時40分

解 散：同・鶴川駅 午後2時半
携 行 品：昼食(集合前に準備)

飲料、雨具、敷物

参加費：300円(交通費・施設入館料は、個人負担)。初参加の方は別に名札代200円。

クラブ役員

会 長 高嶋美知子
副 会 長 篠原 文恵
書 記 本川 悦子
会 計 石井 元子
担当主事 宮崎 純

9月の記録		ニコニコ	5,650円
在籍者数	18人	メネット	0人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	598円
出席者数	11人	ファンド残高	151,418円
メーカーキャップ	0人	ホテル校ファンド	4,550円
出席率	65%	ホテル校残高	35,873円
前月修正	—	WHO参加者	40人

10月例会のご案内

今月の強調テーマ： EMC/E, YES

秋のすがすがしい時期を迎えようとしています。今回の例会はそれにふさわしい音楽「たのしさ・ものさびしさ」などを表現するオーケストラの話をしていただきます。皆さま、お友達をお誘いの上、ご出席ください。興味をいただける方がご出席下さればと願います。

日時：10月20日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」4F 第2教室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：C班(山田利、大野、片平、小山、本川)

HAPPY BIRTHDAY

5日 片平 進一 18日 竹内 祐子

20日 木原 邦枝

受付 本川 悦子
司会 大野 貞次

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
挨拶と紹介
会食

高嶋 会長
一 同
山田利三郎
高嶋 会長
一 同

卓話 「オーケストラおもしろおかし裏話」

山下進三さん

ワイズ報告
YMCA報告
スピーチ(ニコニコ)
閉会点鐘

高嶋会長他
宮崎 主事
一 同
高嶋 会長

ー 9月第2(事務)例会ー

日時：9月22日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

第1会議室

出席者：石井、大野、神谷、
篠原、高嶋、吉田

<報告事項>

- ①9月のデータを確認した
 - ②9月の経常会計を承認した
 - ③会員の近況が報告された
- <協議事項・例会関係>

▲10月例会

決定事項を確認した。

▲10月第2例会

日時：10月27日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

▲11月例会

日時：11月17日(木)

18:45~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 5F

第2会議室

卓話：「災害時にも役立つ

ECCO折り紙」

カトー折り考案者

担当：A班(吉田、篠原、鳥越、
木原、堀内、山田紀)

▲11月第2例会

日時：11月24日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

第1会議室

<協議事項・例会以外>

- ①東京 YMCA 山手センターのクリスマス会の委員に、当クラブから神谷幸男さんが加わることを承認した。また、例年通り、クラブから当日の飲み物を提供することにした。
- ②区定款の見直しについて、定款改訂の目的、前文案が募集されていることの意味が話し合われた。
- ③あずさ部長から提案のあった部役員の補助金の見直しについて、部役員の経済的負担、補助できる金額、補助を受けることについての精神的負担、部の財政事情などの意見が出た。
- ④ブリテン編集の問題：現在のブリテンの発行の手順、編集作業の分担では、一部に過度の負担がかかり続行が困難となっていることが報告された。④現行の企画・原稿依頼・原稿集め・レイアウト・校正・印刷・発送の手順を短縮すること、⑤編集作業を前倒しにすること、⑥執筆者は原稿締め切り

卓話者紹介

山下 進三(やました・しんぞう)さん

日本フィルハーモニー交響楽団元ビオラ奏者。1946年大阪生まれ、武蔵野音楽大学卒業後1969年日本フィルハーモニー交響楽団にビオラ奏者として入団、ビオラを磯貝幸枝、ルイ・グレーラ、指揮を近衛秀麿に学ぶ。

在団中からオーケストラのメンバーと弦楽四重奏団を結成して現在も活躍している。また在団中から昭和大学管弦楽団、オルフェ弦楽合奏団など指揮者として活動しており、退団後はビオラの奏者のもとより、指揮者としての活動の場を広げている。

子供時代を過ごした郡山の小学校のオーケストラを指導して、毎年のように音楽コンクール全国大会で優勝に導いている。

期日をを守ることなどを検討した。

- ⑤チャリティーランのチーム出場分担金の支出を承認した。

(記録：書記代理・吉田明弘)



右は落ち着いたたたずまいの立教
大学キャンパス（WHO）
左は卓話者・菅谷淳・東京YMCA
副総主事



東京Y中期計画を聴く —9月例会報告—

9月の強調月間のテーマはユース。9月9～11日に山中湖センターでワイズが主催するユースボランティアリーダーズ・フォーラムが開催された。東京YMCAの2016-2018年中期計画がスタートし、わがクラブとしてもYMCAの良きパートナーとなるべく、さらにYMCAについて学びたいと思い、東京YMCA副総主事菅谷淳さんをお招きして最近の動きについてお話を伺った。

菅谷さんをお願いしたのは、9月の担当者個人の意向ではあるが、菅谷さんとは殆ど馴染みがなかったこと、「東京YMCA」7/8月号に掲載されていた中期計画策定委員による座談会の司会を務められておられたこと、そして、お話がとてもお上手であること（東京多摩みなみクラブの設立総会でのお話を聞いての経験から）による。

9月例会は欠席者が多くちょっと淋しい例会ではあったが、美味しいお弁当を楽しく食した後、菅谷さんの卓話を伺った。

まずは自己紹介。社会人としてのスタートは証券マン。仕事は自分には合わないことが判って、先を見ずに退職。幅広い友人・知人の紹介で東京YMCAに就職。ここでいろいろと多くのことを体験されて現在に至っているとのこと。キャンプなどではご家族ぐるみで仕事に打ち込まれたとか。

さて、本題。東京YMCAは長

らく財政面で悩まされていたが、様々な改革・努力によって2013年には19年ぶりに黒字に転換。次の10年どこに向かおうとするのか。最初の3ヵ年計画として「第1期中期計画（2016-2018年）」が策定され、スタートした。「若い生命（いのち）を豊かに育てるために」。

骨子のその1. 運動体を志向する。地域で活動するランチが成り立つようにする。10年後には本館が持てるようになりたい。そのためには、その2. 会員活動を活性化する。即ちワイズとの協働が必須。次にその3. YMCAのブランド化（ブランディング）。YMCAとはこういう素晴らしい活動（一つとして社会貢献）をする団体であるとの世間への定着化。

以上私見を交えての報告です。YMCAって素晴らしい団体ではないですか。この団体と協働していきましょう。（神谷幸男）
出席者：石井、大野、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、宮崎、山田（利）、吉田、＜ゲスト＞菅谷淳、＜ビジター＞浅羽俊一郎（東京山手）、（メイキャップ）なし

水族館と立教大キャンパス —WHO 9月例会—

9月24日は、残暑を避け、池袋のサンシャイン水族館と立教大学キャンパスを中心のコースでした。集合場所は、戦前は豊島師範（第二師範）、戦後はヤミ市の跡地の建つ東京芸術劇場。40人が集いました。

成蹊学園発祥の地と、46回転居した探偵小説家・江戸川乱歩が昭和9年から死去する40年まで住んだ旧居を訪ねてから立教大学へ。歴史的レンガ造りの2階建て校舎を中心としたキャンパスは、男子学生がいるとは思えないほど美しく優雅。「鈴懸の道」を歩きました。「君と語らん」の歌詞にふさわしい、学生たちの語らいの場となるベンチが、そこここに設置され、学生の語らいが大切にされている印象を受けました。

学生食堂は天井が高く、照明が控えめで落ち着いた雰囲気。長嶋茂雄さんが学生時代好物だったカツ丼が“不滅”でした。

雨が降り出したので、地下道を水族館に急ぎました。ものすごく混雑していて、入館したところで解散、自由行動にしました。

江戸時代、辻斬りや追剥が横行した頃に建立した四面塔や、サンシャインシティが戦後、戦犯が収容された巣鴨プリズンの跡地であることを記す碑などは、降雨もあって訪れませんでした。

ワイズ関係の参加は、吉田（東京西）、中澤・藤江（東京たんぽぽ）でした。

WHO今後の予定

11月26日（土）

開国の港、浦賀歩き

12月17日（第3土）

変貌する日本橋に残る明治

1月28日（土）

すみだ北斎美術館と両国の町

2月

夏目漱石記念館と界限歩き



山中湖YMCAセンターで行われたYVLFの参加者たち

YVLF (ユースボランティアリーダーズフォーラム) 報告

ユースボランティアリーダーズ・フォーラムが9月9日(金)～11日(日)、東京YMCA山中湖センターにおいて、東京・横浜・とちぎ・埼玉・茨城・北海道・ぐんま・千葉YMCAから32人のリーダーが参加して開催された。合わせて、カウンセラー6人、YMCAスタッフ3人、ワイズは浅羽俊一郎実行委員長(東京山手)ほか28人(内3日間通して9人)が参加。そして講師にはリーダー・カウンセラーOBでもある文教大学人間学部人間学科准教授青山鉄平氏を迎えた。

リーダー達は東京駅に集合、バスで山中湖センターへ向かい、(一部は直接センターへ)で合流。17:00、開会式オリエンテーション、各YMCAの紹介、リーダーを6グループに分け研修をスタートさせた。

1日目は夕食後グループ対抗ゲーム大会で、ワイズメンも参加した。その後グループタイム、入浴等を行い就寝。

2日目は6:30起床で始まり、朝の集い・朝食、9:00より青山鉄平氏による基調講演。

講演内容は『今、リーダーに求められていること』。関わること・遊ぶこと悩むこと、それぞれの課題を具体的に話された。終わりにこの可能性と危険性それぞれの「次の一歩」を考えることを、

各グループで話し合う課題として出された。

昼食はワイズメンがカレーを作りリーダーと共にした。午後はリーダーはグループタイム、ワイズメンは青山鉄平氏による講演。YMCAが子ども達のためにキャンプ活動を行う目的等について、野尻学荘キャンプを中心にスライド等を交えて話をされ質疑応答がなされ、良き時間を過ごすことができた。夕食後のキャンプファイヤーにはワイズメンも参加し楽しさを味わった。

3日目(最終日)7:00、聖日礼拝、衣笠輝夫ワイズ(埼玉)が奨励を行った。

朝食後5回目のグループタイムを行い、課題をまとめ10:30からグループ毎にその結果の発表がなされ、それぞれ特徴をもった発表となった。青山氏の講評をもってフォーラムを閉会した。

この3日間を通し若いリーダー達が得た物を各YMCAに持ち帰り、それぞれのプログラムに参画し奉仕して下さること、本当に感謝であります。またこのフォーラムを支えて下さるワイズメンにも感謝するものです。そして長く実行されることを願うものです。当クラブからの参加者は、神谷・大野でした。(大野貞次)

東京チャリティーラン雨で中止

第30回チャリティーランは、9月22日日本場公園で行われる予定

で多くのスタッフ・ボランティアが準備作業をしている中、本部より豪雨のため中止が発表されて残念。この大会には54チームが参加予定でした。その内の2チームが山手センターから参加、その参加費1チーム分を同センターで活動している(東京山手・東京西・東京サンライズ・東京たんぼクラブ)が各25,000円を出し合いました。この参加費は東京YMCAが行っている障がい者等のプログラムに用いられます。

(大野貞次)

富士山例会に参加

恒例の富士山例会が、9月24・25日に5合目の佐藤小屋で行われました。予報では雨は午後から止むことになっていたのですが、夜まで止みませんでした。登山は馬返しから元気に(?)雨の中を歩きました。途中で雷が鳴り、横断した道路は川のような様子でした。

例会開始までの間、神戸ポートクラブの大野さんのギターの伴奏で歌い、過ぎ去った20代のことを懐かしく思い出しました。例会にはユースから2人の参加があり、1人はカメルーンからのピエールさんです。滞在1年半ですが日本語がとても上手でした。

西日本区から京都洛中、京都ZERO、神戸ポートクラブが参加されました。2部が始まる前にガイドの駒山さんがご自分のマラソン体験(国内・国外)をお話しして下さいました。

お楽しみのバーベキューは雨のため室内で食べましたが、1時間位して雨が止み、きれいな夜景が見られました。翌日のご来光ウオークは雲間から太陽が顔を出しました。自然散策は奥庭コースを巡り、下山して温泉に入り食事をして解散しました。佐藤小屋の佐藤さんご夫妻、そして富士五湖クラブ、東京サンライズの皆様のおもてなしに毎年ながら感謝です。(本川悦子)

☆☆ インタビュー ☆☆ 磯部 成文さんに聴く

* * *

磯部成文(いそべ・しげふみ)さんは、東京北クラブの2015-2016年度会長です。東京 YMCA 元常議員を10年務められました。パートナーの幸子さんも同クラブのメンバーです。



—リオ五輪女子200m平泳ぎで、金藤理絵選手が金メダルを獲った時、磯部さんの会社の名がTVに映ったのでびっくりしました。

「わが社は2011年から金藤理絵選手と所属契約をしてきました。彼女が出場する大会には社員全員が揃いのTシャツを着て大きな応援を送ってきました。8月12日の決勝は現地時間に合わせパブリックビューイング、子どもたちも含めて約70人で大声援をおくり、ゴールした瞬間、会場は大興奮・感動の嵐となりました」
—彼女がロンドンオリンピックに出場できなかった以前から応援されていたのですか。

「彼女のコーチとのご縁からサポートを始めました。わが社は日本で最初の学童用水泳帽子を開発、その後1972年ミュンヘン五輪に水泳帽子が日本代表チームに採用されるなど、水泳には永く縁があります」

—もともとは、赤ちゃんのおむつカバーを作られていたそうですね。

「私の父が1946年にゴム布製品製造卸業を創業、赤ちゃんのおむつカバーやリュックサック、ぞうり袋など学童用品を製造していました。その後、学校で水泳教育が盛んになり、技術を生かして、水泳帽子を作りました。<おむつ

からオツムへ>です。やがて水着も商品化するようになりました。1970年代から介護用品も手掛けていますし、介護する人、介護される人向けのかなり特殊な用途、機能性の高い商品もあります」
—「介護」という言葉を商標登録されているとか。

「近所のお嫁さんからお漏らしをする家のおじいちゃんのおむつカバーを作ってほしいと頼まれて作ったのが大きなおむつカバー、「助ける」「護る」の考え方から、1984年に「介護」を商標登録、介護おむつカバーという商品名にしました。今では「介護」はさまざまな分野で使われています」

—歴史のある会社ですが、次々に新しい企画を打ち出され、ユニークな経営で、東京商工会議所の「第1回勇気ある経営大賞」を受賞されていますね。

「たくさんの生活者・ユーザーさんのお声を聴いてモノづくりをしてきましたが、基本となる考え方は、「お客様が第一」の経営理念をもとにした自力本願経営です。大量生産を目指すのではなく、身近な人の話や日常生活の中にあるヒントとして商品化をしています」
—会社内に博物館があるとか。

「小さな博物館は墨田区が30箇所くらい認定しています。わが社は水泳帽子を中心にモノづくりについて来館される方に館長の私がお話します。今年11月に「すみだ北斎美術館」がオープンします。ぜひお立ち寄りください」

—ワイズに入られたのは。

「1980年、東京北クラブがチャーターした時です。『浅草にYMCAの輪を広めよう』が設立の趣旨でした」

—当時の東京YMCAの総主事・斎藤総衛さんが、「彼のような人が、ワイズやYMCAに増えると良いんだけどな」と言われたのを覚えています。以前からYMCA会員

だったのですか。

「私は東京YMCA少年部からです。私たちは、毎週、神田の会館に集まって活動していました。今でも、当時の仲間と年に1度は集まります。1960年に齊藤實主事の引率でアムステルダムで行われたYMCA世界年長少年大会に参加させていただきました。1964年に就職したばかりの大阪で大阪YMCAに入会しました」
—子どものころはどんな子どもでしたか。

「泣き虫だと言われていました」
—学校を出られて、すぐ家業を継がれたのですか。

「いいえ、卒業後、大阪の繊維問屋に住込み店員として3年間丁稚奉公しました。その後、東京に戻って、父が私の高3の時に急死したため母が経営する現在の会社の前身の会社に入りました」
—YEEPの高校生を預かったこともありましたね。

「スウェーデンから1988年に女子高校生が1年間来日して3人のホストファミリーが分担しました。わが家に最初にホームステイ、9月から都立小石川高校に通い、翌年3月に卒業しました。

「その後、彼女は結婚してご主人と子どもを連れて来日し再会しました。また、彼女の両親が横浜国際大会に来日してともに喜び合ったことは、わが家にとって素晴らしい思い出です」

—磯部さんのように、アイデアを素早く事業に展開される方にとっては、ワイズメンズクラブは、動きが遅いと思われませんか。

「ワイズメンズクラブにはワイズメンズクラブの歩みがあると考えますが、異分野・異質・異端からの視点を持ちたいと思います」
—ワイズメンとして、ぜひやりたいということがありますか。

「若いメンバーが主役になるクラブづくりではないでしょうか」
—お忙しいところありがとうございました。(吉田明弘)

(B) 高齢者の食事療法

「貝原益軒の養生訓」では、細部にわたり詳しく教え、ほぼ理に適っている。節度ある飲食こそ基本、食欲に克つことが大切で、腹八分目を教える。

バランスの良い食事として、淡白なもの、五味(甘い、辛い、塩辛い、苦い、酸っぱい)を少しずつ食べれば病は生じない。

但し「食い合わせ」については、根拠の乏しいものとされている。

酒は朝夕の食後に、人肌に暖めて飲み、自分の適量を守る。お茶は良いが、タバコは損多し、はじめから吸わないにこしたことはない。

「平成の養生訓」では、

(1) 栄養バランスの良い(蛋白質12%、脂肪25%、炭水化物63%)3度の食事が基本で、「CR(カロリー制限)」の1日の総カロリーを各自決めて守るが良い。

105歳の日野原重明医師は、自らを太りやすい体質ときめ、朝食は野菜・果物のジュースにオリー

ブ油を茶さじ1杯加え、牛乳コップ1杯と牛乳入りの暖かいコーヒー1杯のみ。昼食は牛乳1杯に2~3枚のクッキーのみ。夕食は肉、魚を加えた豊かな家族と同じ食事を続けておられる。総カロリーは基礎代謝の1,200Kcalに加えて、活動による200Kcalを加えて1日で1,400Kcalとしておられる。私の場合は、基礎代謝量が1,100Kcalなので、活動による300Kcalを加えて1,400Kcalとしている。休日の昼食は抜いている。

(2) ビタミンE・Cをはじめビタミン豊富な野菜・果物を加えた、栄養バランスの良い献立とする。野菜・果物は市販の100%ジュースコップ1杯もよい。

(3) 抗酸化作用の豊かな副食を：活性酸素が体を酸化させて起こるのが老化でこれを抑えることが、抗酸化作用である。代表的な抗酸化食品をあげると、

①バナナ(ビタミンB群、ポリフェノール) ②かぼちゃ&人参(カロチン)、トマト(リコピン)、

ナス(アントシアニン) ③キャベツ、ほうれん草、ブロッコリー(ビタミンC) ④ニンニク、しょうが、ネギ、セロリ(アリシン) ⑤ソバ(ルチン) ⑥大豆食品(イソフラボン) ⑦緑茶(カテキン) ウーロン茶、ココア、コーヒー(ポリフェノール) ⑧ブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリー、イチゴ(ポリフェノール) ⑨アボガド(ビタミンC・E) ⑩ナッツ類、特にアーモンド(ビタミンE)等。

上記の10種の植物色素成分(赤、緑、紫、黄色)の他に、魚介類の色素にも抗酸化作用のあるサケ、エビ、カニなど赤い魚介類に含まれる「アスタキサンチン」や発酵食品(みそ、醤油、豆腐、納豆、漬物、チーズ、ヨーグルトなど)、梅干し、酢などがある。以上の食品で老化防止を!

(4) 酒の飲める人は赤ワインを、タバコは一切吸わない。

(5) 市販のサプリメントで補うことも出来る(例えばコエンザイムQ10など)。

60年来の夢、更に

山田利三郎

1954年、自動車運転免許証を取得以来何十台の車に乗ったことか。その頃から運転が自動でできたら楽なのにと思い続けていました。

1965年ごろセールスデモンストレーションに豊田中央研究所と日本電装を訪問したことがありました。その頃は車に半導体を使い始めた当初のころでしたが豊田中央研究所で車の自動運転に話の花が咲きました。

当時、考えられたことは外部からハードで情報を送ることが主で、例えば道路にケーブルを埋め込みその上に車を置き自動運転に必要な情報を伝える。高速道路に等間隔に電波を発信する装置を置き誘導する等、その他多くの

ことが話題になったことを思い出します。

最近では自動車の方から情報(カメラ、電波等)を出してそれを受け、人口知能(AI)の活用による自動運転、更に外部に対し不良有害物質、廃棄物を出さない車、技術開発は果てしなく進んでいる。

先日(10月)の夜NHK TVで車の「自動運転革命」番組を放映しており、それによると自動運転はレベル1を過ぎレベル2を競い合っている。レベル4で完全自動運転。これまでは20年?かかるか分からないが近い将来だ。

研究は自動車メーカーは勿論電機メーカー、コンピューターメーカーまである模様。

楽しみだ。夢はふくらむ。

編集後記

今号は早くからの原稿の依頼に皆さまがお応え下さり、いろいろな記事を的確に入稿していただき10月号を完成させることができましたこと感謝です。

編集者の独り言

チャリランの報告でカットした部分の追加報告。当クラブからは大野・篠原・鳥越がボランティアとして参加しましたが準備途中で中止になったのでボランティアに配られたパン・飲料水等を貰って雨に濡れながら帰りました。そのあと浅羽あずさ部長に誘われ西荻の店でジャズセッションを聞くことになりました。参加者は大野・篠原・鳥越、東京八王子の久保田さん・小口さんの5人、演奏者は浅羽さんのグループ6人他でした。(T.O)